

第3回 観光・MICE 推進プログラムの改定に係る有識者会議 議事概要

【観光・MICE 推進プログラムの改定に係る有識者会議委員（敬称略、順不同）】

- ・山下 真輝（株式会社 JTB 総合研究所 研究理事）
- ・原 忠之（セントラルフロリダ大学 テニユア付准教授）
- ・西本 恵子（立命館大学大学院 教授）
- ・竹中 良孝（福岡観光コンベンションビューロー 専務理事）※欠席
- ・豊福 辰也（福岡市ホテル旅館協会 会長）

■第3期 観光・MICE 推進プログラムについて

- 住民や従事者のウェルビーイングに焦点を当てるため、掲げられている指標は重要。
- マナーや交通混雑に対して「迷惑」であるとの回答が 55.9%であることは重たい課題であるが、同時に市民にとっては稼ぐチャンスでもある。観光・ホスピタリティ経営教育への注力が重要。
- 従事者の賃金や働きたいという部分の視点を持ってもらえることは大変ありがたい。事業者としても、経営者の意識を変えていき、目標値の上積みも視野に取り組んでいきたい。
- 成果指標は非常に良いが、賃金も含むデータを詳細に把握し、例えば、観光事業者の賃金上昇が地域にもたらすメリットを整理して対策を講じることが重要。

■令和8年度観光振興関連予算・今後の観光・MICE 振興に必要な取り組みについて

- MICE の開催効果が伝わっておらず、金額のみ受け止められている。宿泊税を財源としたスキームであることを、宿泊事業者を中心とした観光事業者に丁寧に説明することが重要。
- 欧米豪の誘客には、現行の取組みと仁川空港経由便の強化を併せて行うことが重要。
- 民泊の利用が増えていると聞いており、その部分の効果測定に向けた検討が必要ではないか。
- 成田空港や羽田空港の余力が限界に近づく中で、ゲートウェイを目指すのであれば、東アジア偏重ではなく、来訪者の質を変えていくための航空路線戦略を含めた本質的な取組みが必要。
- MICE は経済波及効果だけでなく、都市間での誘致競争における切磋琢磨の中で、国際マーケティング能力が高まることなども目的である。世界最先端の潮流を掴むためには、ICCA 総会などで世界の DMO と議論することも有益であるほか、国際マーケティングの担当者が現場で得た知見を観光・MICE 政策に反映させる流れがあると良い。
- 福岡市から国際会議やイベント等を生み出していないと MICE 都市としてのプレゼンスも発揮できにくいと感じる。分野を絞り福岡市らしい国際会議に繋がる施策があると良い。
- 市民の満足度向上について、アメリカは MICE のギブアウェイを使うなど、上手に取り組んでいる。サポーターやシニアスタッフなどの活用を含め、市民活動に注力できると良い。
- 次のステップは、地域の観光事業者の経営高度化であり、データドリブン経営への転換が必要と考える。市民や事業者がリアルタイムで来訪者数など観光経営に必要な各種データを活用できるリソースがあることが望ましい。
- 観光は目的ではなく手段である。観光という産業を手段として用い、市民の生活を豊かにすることでオーバーツーリズムは起きにくくなる。観光で市民の暮らしを豊かにするという点をさらに強調するべき。